12 香川県さぬき市

農林漁業　食育・教育　高齢者の活躍

みなみがわじねんじょけんきゅうかい
南川自然薯研究会

～「特産の自然薯」で地域おこし、全国発送へ～

南川じねんじょまつり

中学生との自然薯掘り体験学習

経　緯

○昭和62年、農家の有志32名が転作作物として自然薯栽培を開始。
○平成元年４月に「南川自然薯研究会」を設立。
○品質の向上に向けて試行錯誤を繰り返し、今では県内外でも有数の産地となる。

取組内容

○栽培圃地巡回研修や県外の先進地視察の実施。
○地域の一大イベントとして「南川じねんじょまつり」を開催し、自然薯を使った料理コンテストなどを実施。
○中学生等の自然薯掘り体験学習の実施。
○地元での直売、全国への宅配、各種イベントへの出店など、積極的に販路を拡大。

活動の効果

○地域高齢者の生きがい対策と地域を元気にする起爆剤となっている。
○消費者との信頼関係を構築しており、令和２年度は収穫した2,380kgが完売となった。
○「じねんじょまつり＆収穫感謝祭」を毎年12月に開催し、地域内外の人々と交流を深めている。

応募団体からのアピール・メッセージ

生産が追いつかないほどの需要があるため、生産量を拡大するためにも関係機関と連携して後継者の育成に取り組んでいきたい。

さぬき市大川町南川1317番地2　Tel：0879-43-4066

13 香川県東かがわ市（ひがし）

地産地消　伝統の継承　食育・教育

株式会社ソルトレイクひけた（かぶしきがいしゃ）

～ハマチ養殖発祥の地、安戸池で、海と魚と友達になろう～

ハマチの解体実演

校外学習

経　緯

○東かがわ市がハマチ養殖発祥の地「安戸池（あどいけ）」に漁業体験施設「マーレリッコ」を建設する際に、施設の管理運営を担う組織として設立。
○養殖漁業の体験や地域ブランド「ひけた鰤」を活用した食育教室を展開することにより、施設への集客を図ることとした。

取組内容

○学習体験施設、食堂、管理釣り堀を運営し、香川県等と連携しながら、東かがわ市の推進する着地型観光の一翼を担う。
○地域イベントに積極的に参加して施設をPRし、知名度を高める。
○スタッフが香川県認定の「お魚一匹食べよう伝道師」等の資格を取得し、幅広い年齢層に向けて魚食教育を行う。
○ハマチの解体実演や通信販売、非接触決済ツールの導入による販促活動を実施。

活動の効果

○活動が評判になり、知名度が向上してイベントなどに声がかかるようになった。多くの小学校等の校外学習の受け入れにもつながっている。
○出張して食育教室やハマチの解体実演を行う機会が増えて、魚食教育にも力をいれるようになった。様々な場面に対応するため、知識を蓄える努力をしている。
○外国からの旅行者にも好評を博している。

応募団体からのアピール・メッセージ

外国からの来館者も増えているので、今後は館内表示やHPも分かりやすいように改善し、英語で説明ができるようスキルアップして満足度の向上を目指したい。

東かがわ市引田4373　Tel:0879-33-2800

14 香川県東かがわ市（ひがし）

地産地消 | 教育機関との連携 | 学生・若者の活躍

三高（さんこう）みんなの食堂（しょくどう）プロジェクト（香川県立三本松高等学校（かがわけんりつさんぼんまつこうとうがっこう））

～高校生が地域と作る新たな学食とまちの未来～

地元食材をふんだんに使った日替わり定食

梅ジュース用の果実収穫

経　緯

○食堂の運営が厳しく、継続が難しい状況だったが、新たな仕組みを作れば大きな可能性があると考えた。
○地域の資源を活かし、生徒が主体的に活動 して地域と共に食堂運営に関わることで、学びと交流の場となり地域の将来を担う人づくりにつながる食堂にした。

取組内容

○農事組合法人「福栄中央」が地元食材を活用した食事を提供。
○全校生徒が参加者で、自主的に活動するリーダーが中心となり広報活動やメニューの提案、校内に整備した畑での野菜作りなどに取り組む。
○地元の飲食店に「一日食堂」として出店してもらったり、料理人からメニュー開発の指導を受けるなど、地域と生徒が連携して交流を深めている。

活動の効果

○生徒は自分たちの力で思った以上のことができることに達成感を覚え、自主的な活動で得られるやりがいや、地域に支えられるありがたさを感じている。
○地産地消を促進しつつバランスの良い食事が摂れることや、日替わり定食のみにして食品ロスを出さないようにしていることなどはSDGsの観点からも有意義である。
○マスコミ等に取りあげてもらい地域に喜んでもらうとともに、生徒の活動による様々な賞を受賞している。

応募団体からのアピール・メッセージ

日々の活動を通して生徒が地域の良さと自らの力を実感し、将来のコミュニティーづくりに進んで関わる意識が育つ取組。今後、地域の拠点となるよう広げていく。

東かがわ市三本松1500-1　Tel：0879-25-4147

15 香川県三豊市（みとよ）

農林漁業

耕作放棄地対策

学生・若者の活躍

笠田高校（かさだこうこう）　農産科学科（のうさんかがくか）3年野菜専攻（さんねんやさいせんこう）

～薬用作物を利用して、健康で元気な三豊市へ！ ～

市長と一緒に収穫実習

地元小学校での普及活動

経　緯

○三豊市は耕作放棄地の有効活用や農家の所得向上のため、薬用作物の普及に取り組んでいた。
○令和2年に市と連携協定を結んだことから、合同で生薬栽培の研究を行い、地元農業の活性化や市民の健康意識向上を目指して活動を始めた。

取組内容

○実証栽培実験を行い、三豊市に合う作物の種類や栽培方法について研究。センサー等を用いる「スマート農業」も実践している。
○子どもたちに薬用作物を身近に感じてもらうため、比地大小学校と連携してトウガラシと除虫菊を栽培。
○収穫した薬用作物を使った製品作り。
○地元栽培農家との交流。

活動の効果

○メディアに取り上げられて薬用作物の栽培に注目が集まり、昨年11軒だった栽培農家が今年度は34軒まで増えた。
○ミシマサイコ、ヤマトトウキ、トウガラシが順調に生育した。採取したヤマトトウキの種子は農家に配布して栽培してもらう予定。トウガラシを使って作った薬用入浴剤は大好評だった。

応募団体からのアピール・メッセージ

笠田高校は地元農家と生薬取扱業者をつなぐパイプ役を担っている。薬用作物を通じて三豊市が元気になるような活動を続けていきたい。

三豊市豊中町笠田竹田251　Tel：0875-62-3345

16 香川県三豊市（みとよ）

伝統の継承 | 教育機関との連携 | 食育・教育

下高瀬子どもすこやかボランティア（しもたかせ　こ）

～アイガモと昔の道具で米作りボランティア～

「おいでまい」をアピールして販売

昔ながらの米作りを体験

経　緯

○米の減反政策が行われていた27年前、休耕田の有効活用を考えていた代表と下高瀬小学校職員の思いが一致し「下小子どもすこやかファーム」が誕生した。
○子どもたちに何か役立つ農業体験をさせたいと思った代表夫妻が水田を学校田として貸し出し、稲作指導を始めた。

取組内容

○年間を通して、子供たちの米作り体験学習を支援。
○昔ながらの道具を使った手作業での農業体験を実施。
○アイガモを田んぼに放して環境にやさしいお米を有機栽培。
○「大坊市」（よろず市）で栽培した「おいでまい」を販売し、その取組を紹介。
○収穫した米や野菜を使っての調理やもちつきなどのイベント実施。

活動の効果

○年間を通しての米作り体験学習などで、児童は育てる仕事の大変さ、昔の人の知恵や工夫、命と食のつながり、感謝する心など多くのことを学んでいる。SDGsの視点からも意義が大きい。
○長年にわたる活動は、地域と学校をつなぐコミュニティ・スクールの具体的な姿の一つとして、重要な役割を果たしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

メンバーは子供たちの笑顔のために長年頑張っている。今後も子どもたちや先生方と感動を分かち合い、このやりがいのある活動を続けていきたい。

三豊市三野町下高瀬2096　Tel:0875-72-5384

17 香川県三豊市（みとよ）

農林漁業　6次産業化　地域活性化

中国四国農政局 ディスカバー農山漁村の宝 選定地区

みとよのみプロジェクト

～みとよのとくべつよりすぐり 地域ぐるみで地域産品づくり～

販売促進フェア

開発された商品

経　緯

○「フルーツ王国みとよ」と呼ばれるほど果物や野菜が豊富な地域だが、それを活用した地域産品がなかった。
○平成31年に三豊市と生産者を中心とした地域活性化のためのワークショップが始まり、地域ぐるみで地域産品づくりに取り組むプロジェクトがスタートした。

取組内容

○三豊市と地元生産者が連携して市内の魅力的な農産物を6次産業化。キウイ等の「完熟ドライフルーツ」、イタリアントマトの「トマトケチャップ」、スーパーフードとして注目されるモリンガの「モリンガ茶」等、地域の農産物を使った商品を多数開発。
○生産者と商品を掲載したHP制作やSNS等による情報発信。
○展示会、商談会への参加やフェアの開催。

活動の効果

○こだわりの地域産品が完成し、地域のブランド化を推進した。
○地元新聞などのメディアに取り上げられたり、首都圏や関西の展示会やオンライン商談会に参加することで「みとよのみ」の魅力をPRできた。
○三豊市のふるさと納税の返礼品登録などで、徐々に取り扱いが増加して認知度が上がった。

応募団体からのアピール・メッセージ

販売促進を強化しつつ、地域農産物の魅力をより効果的に発信して、地域ブランドとして成長できるよう地域活性化に取り組みたい。

三豊市高瀬町下勝間2373-1　Tel：0875-73-3040（三豊市農林水産課）

18 香川県三豊市（みとよ）

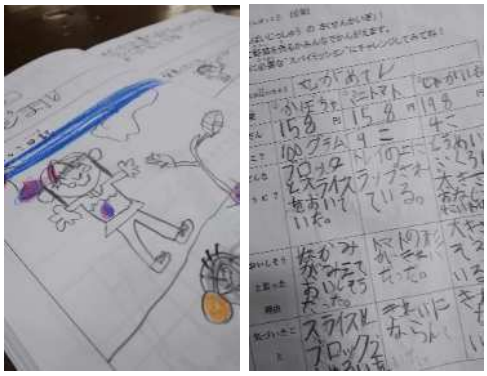
地産地消 | 耕作放棄地対策 | 食育・教育

山本町環境保全会（やまもとちょうかんきょうほぜんかい）

～三位一体！親子Agriプロジェクト～

マンツーマンで教わる農作業

待ちに待った収穫



オリジナル「田んぼっこノート」

経　緯

○平成17年に前身となる「河内アグリ活動組織」が発足。水路・ため池・農道・農地の維持管理を行いながら、学校教育連携・啓発活動にも取り組んでいた。
○　令和2年に町内の組織が合併して構成員約430名の「山本町環境保全会」となる。

取組内容

○地域おこし協力隊と野菜ソムリエプロとの連携企画として、会員制の食育プログラム「田んぼっこ」事業を展開。
○多面的に感性を育むことを考えて、栽培や収穫といった農業体験だけでなく、調理や販売実習なども行っている。
○多くの人が活動に関わって交流できるように、収穫体験などは一般の方にも参加してもらっている。

活動の効果

○質の高い食育活動として認められ、「みんな子育て応援団大賞　四国新聞社賞」を受賞した。
○子どもたちが毎回活動の様子を「田んぼっこノート」に記録することで、表現力の向上など子どもたち自身の成長も見られ、親子間のコミュニケーションが増えると好評を得ている。

応募団体からのアピール・メッセージ

継続的な活動を維持すると共に、人手不足による農産物のロス問題などに着眼して、解消できる仕組み作りにも着手していきたい。

三豊市山本町

19 香川県土庄町（とのしょう）

6次産業化

農林漁業、農村文化体験

鳥獣被害防止

小豆島陽当の里伊喜末（しょうどしまひあたりのさといきすえ）

～農業の大切さや地元への愛着心を伝えたい～

二条大麦プロジェクト　100%産ビールの完成

芋づるの塔

芋掘り体験みんなで写真撮影

経　緯

○瀬戸内海を望む風光明媚な地区だが、過疎化・高齢化が進み、数年前から荒廃地が目立つようになってきた。
○危機感を抱いた有志数名が、地域に活気を取り戻そうと、農業振興と明るく元気な農村づくりをめざし、平成29年度に「小豆島陽当の里伊喜末」を立ち上げた。

取組内容

○ビール醸造所「まめまめビール」と「小豆島陽当の里伊喜末」が協力して、100%小豆島産のクラフトビールを誕生させる「二条大麦プロジェクト」を実施。
○地元の子供達にサツマイモのつる挿しと収穫の体験を実施。
○獣害の防止のため、約2.2kmに渡る被害防止柵を設置。

活動の効果

○麦やオリーブの作付けによって遊休農地が解消されている。
○「芋づるの塔」は芋のつるを自然乾燥させて牛の餌や堆肥にするための古くからの知恵。地元住民と町職員でつくる「よつみいきいき協議会」が2010年から実施しており、子供達にとっても地域の風物詩に触れるよい機会となっている。
○獣害防止柵の設置により、現在では獣による被害はほとんど見受けられない。

応募団体からのアピール・メッセージ

グリーンツーリズムなどのイベント参加の募集や活動の情報発信のためHPを開設し、当地区内の各団体と連携を図り、様々な活動を行って元気な農村にしていきたい。

小豆郡土庄町伊喜末1925　Tel：090−4500−9925

20 香川県土庄町（とのしょう）

農林漁業

企業との連携

地元のオリーヴ農園の活用とオリーブ文化を伝える取り組み

NPO法人オリーヴ生活文化研究所（えぬぴーおーほうじん せいかつぶんかけんきゅうじょ）

～瀬戸内オリーヴ共和国活動の展開～

オリーヴの苗木と盆栽

樹齢千年のオリーヴ大樹で禅を行うツアー

経　緯

○心と体の健康を追求し小豆島の発展に寄与することを目的として平成21年に設立された。
○小豆島ヘルシーランド（株）との協働で、多くの方々がオリーヴの素晴らしい効果を体感し、文化的側面にも触れられる事業を実施している。

取組内容

○オリーヴの苗を瀬戸内を中心とした各地に寄贈し、全国に栽培技術を伝える。
○「オリーヴの森感謝祭」から発展した「瀬戸内・小豆島リトリートキャンプ」などのイベント開催。
○芸術家村事業やフォトコンテストの開催、オリーヴ盆栽の普及活動。
○学生や地元児童への教育や収穫体験の実施。

活動の効果

○「3万本の苗木をお届けしオリーヴの輪を広げる」を合言葉に、直島町、多度津町、宇部市、周防大島町などに苗木を寄贈することができた。
○瀬戸内オリーヴ共和国活動が「第4回環境省四国環境パートナーシップ表彰　優秀賞」を受賞。

応募団体からのアピール・メッセージ

「オリーヴの森」には、はるかスペインからやってきた樹齢千年のオリーヴ大樹があり、訪れた人はオリーヴの持つ素晴らしい力に触れることができます。

小豆郡土庄町甲2695-1　Tel：0879-62-5511

21 香川県小豆島町（しょうどしま）

農林漁業　食育・教育

小豆島町漁業振興協議会（しょうどしまちょうぎょぎょうしんこうきょうぎかい）

～漁業の未来は小豆島の未来！漁業の再生を目指して～

魚のさばき方を紹介

地引網体験

経　緯

○漁業者の減少や消費者の魚離れなど、さまざまな要因から漁業が衰退してきている。
○漁業の再生を目指して、漁業関係者と行政による協議会を設立した。

取組内容

○町内の小学生等を対象に、小豆島の水産業ついて地元の漁業関係者が講師となって出前授業や地引網体験などを実施。
○「小豆島町ふるさと商工まつり」に参加し、海の生き物とふれ合える出店やクイズで興味を持ってもらう。
○漁業者を対象とした研修会の開催や、近県の漁業先進地の視察を実施。

活動の効果

○子どもたちは小豆島の水産業について楽しく学び、漁業に関心を持って理解を深めている。
○魚づくしの体験イベントは、魚とふれ合える、新鮮な刺身を味わえると参加者から好評を得ている。
○漁業者の要望に沿った研修を行っているため、参加者の意欲向上につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

漁業を未来につないでいくため、今後も「魅力発信」「生産・販売強化」「担い手対策」などに取り組み、「瀬戸内海ナンバーワンのさかなの島」を目指します。

小豆郡小豆島町　Tel：0879-82-7026（小豆島町役場）

22 香川県小豆島町（しょうどしま）

棚田保全 | 耕作放棄地対策 | 環境保全・景観保全

小豆島町中山棚田協議会（しょうどしまちょうなかやまたなだきょうぎかい）

～先人の汗の結晶を未来へ継ぐ「中山千枚田」～

復活した伝統行事 「虫送り」

中山農村歌舞伎

経　緯

○中山千枚田では耕作者の高齢化と担い手不足が進んでエリアの3割が耕作放棄地となり、地区住民は将来を危惧していた。
○文化や伝統の源である千枚田を守るため、「棚田の村構想」を打ち立て、その具体的な取り組み主体として協議会が設立された。

取組内容

○棚田オーナーを募集し、農作業や伝統行事（虫送り・農村歌舞伎）に参加してもらう。
○香川大学等による農業体験プログラムや小中学校の郊外学習の受け入れ。
○地元の酒造会社と連携して酒米の耕作に挑戦し、小豆島の地酒として販売。
○棚田米と棚田米を使用したアイスをふるさと納税の返礼品にして全国にPR。

活動の効果

○地区外の人たちとの交流により、地元住民が今まで気が付かなかった棚田の魅力に気づき始め、棚田の文化を守らなければという意識が強くなってきた。
○休耕田となっていたところや耕作者が不在となるところで、酒米づくり等を実施することにより休耕田の解消・予防につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

中山千枚田は「全国棚田百選」にも選ばれた貴重な棚田です。
小豆島には魅力あふれる観光地が満載！ぜひ、お立ち寄りください。

小豆島町片城甲44番地95　Tel：0879-82-7026

23 香川県小豆島町（しょうどしま）

6次産業化　企業との連携　高齢者の活躍

中国四国農政局 ディスカバー 農山漁村の宝 選定地区

チームそら豆（まめ）

～そら豆醤油から生まれる笑顔のために！～

沖ノ島から船で乾燥ソラマメを出荷

アレルギーフリーの「そら豆醤油」

経　緯

○大豆・小麦アレルギーで醤油がたべられない人のために、２年の研究を経て商品化した「そら豆醤油」の原料を100％小豆島産にしたいと(株)高橋商店が呼びかけた。
○賛同した栽培希望者が集まり、乾燥ソラマメを生産する組織「チームそら豆」を結成。

取組内容

○醤油の原料となる国産の乾燥ソラマメがなかったため、農商が連携して原料を生産。
○需要の増加に伴い、生産拡大を行い、地域の特産品として製造を維持していくために生産者の増加を呼びかける。
○良いものを作るためにほ場巡回や講習会を行うとともに、生産者とは収穫物を全量買い取る契約を結び、やる気を促している。

活動の効果

○アレルギーフリーの商品需要は高まっており、「そら豆醤油のおかげでいろいろな料理が作れる！」などの声が寄せられ喜ばれている。
○高齢農業者の活躍促進となっており、さらに地元企業との契約栽培によって良いものを作るという目標ができ、生産者の生きがいに繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

アレルギーフリー商品の原料供給により社会に貢献でき、高齢農業者の意欲が向上しています。さらに耕作放棄地の抑制につながるよう取り組みたい。

小豆郡小豆島町安田甲142　Tel：0879-82-1101